

### (3) 東山小学校

学 校 長 宮川 成也  
校内研究代表者 渡邊 真菜

#### 1. 研究主題

「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり」

～自分の考えを表現したいと思える授業づくりを目指して～

#### 2. 主題設定の理由

本校の児童の課題として、表現力の弱さと算数科の学力の低さの2点が挙げられる。発表することに苦手意識をもつ児童が多くいることや、発表はするが単語で終わったり、声が小さく全体に伝わらなかったりすることも学校全体の課題である。学力の部分では、特に思考・判断・表現の部分で課題が見られる。

このことから、本年度は算数科を研究の中心とし、研究主題を昨年度までと同様に「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり～自分の考えを表現したいと思える授業づくりを目指して～」とした。そして、この研究主題を達成するために、「児童が考えたくなる問いの設定」「児童が自分の考えを表現したいと思える授業づくり」の2つを研究の柱とした。

1つ目の柱である「児童が考えたくなる問いの設定」では、活動の必然性や目的をもたせる場面を設定することが大切だと考えた。そこで、単元の内容をふまえた上で、日常生活や社会事象の中から、児童が自分事として考えることのできる問いは何かということを意識して授業づくりを行っていった。2つ目の柱である「児童が自分の考えを表現したいと思える授業づくり」では、自分の考えを発表するだけでなく、ノートに自分の考えを書いたり、ペアやグループ単位で自分の考えを他者に伝えたりと、表現の場をどう設定するかを意識して授業づくりを行うようにした。上記の2つの研究の柱をもとに、校内での研究を進めていった。

#### 3. 研究の進め方と方法

##### (1) 運営

①研究推進委員会（研究日のある週の月曜日 管理職・研究主任）

②研究部会（学力部会・児童理解部会）

\*各部において企画された取り組みは、研究推進委員会等の承認を得る。

③学年部会（毎週木曜日）

##### (2) 校内研の持ち方

・研究日は毎週水曜日（14：25～16：45）とする。（第2週…定例職員会）

・研究日は全教職員による全体研修と各研究部による研究部会等を行う。

・研究推進委員会で企画立案し、全体に提案し、共通理解を図り実践していく。

##### (3) 研究方法

・研究授業では西部教育事務所の指導主事を招聘するとともに、低・中・高学年ブロックを中心に教材研究，学習指導案を作成し，指導案検討を行う。

・他の公開授業については略案を作成する。



#### 4. 今年度の取組

○校内研究授業

日	学級	単元名
5月26日	5年1組	算数科「変わり方を調べよう」
6月22日	2年2組	算数科「長さのたんい」
10月11日	3年2組	算数科「まるい形を調べよう」
11月22日	6年1組	算数科「データの特ちょうを調べて判断しよう」
11月30日	5年2組	外国語科「What would you like?」
1月24日	1年2組	算数科「たしざんとひきざん」
1月31日	4年2組	算数科「面積のはかり方と表し方」



生活場面から問いを設定する



表現する場の設定

・前半の3本は「考えたいくなる問いの設定」、後半の3本は「表現したいと思える授業構成」を協議の視点にして研究授業に臨んだ。

#### 5. 成果と課題 (○成果 ●課題)

○研究の柱を2つに絞ったことで、校内研の方向性がはっきりして、分かりやすくなった。また、研究協議でより深く検討することができるようになった。

○児童への学習アンケートの「算数の授業は生活に生かせる」の項目で2.5%向上が見られた。これは普通の授業から、児童が考えたいくなる問いを意識して教材研究を行うことができたからだと考えられる。

○学習指導要領を確認しながら、各学年での系統性を意識して授業を進めることができた。

○研究協議後、今後の取り組みの方向性を確かめたため、同じ目標をもってみんなで取り組むことができた。

●どの教科でもどんな場面でも自分の考えを持ち、それを自分の言葉で表現できるように、日々の取り組みが必要である。

●「表現したくなる授業構成」について、今後更なる研究が必要。そのために、ICTの活用も取り入れることができないかを検討していく必要がある。

●全校研の事後研の際に、児童の思考が残ったノートやワークシートがあれば、研究協議が深まったのではないかと。

●授業の中で働かせたい「見方・考え方」を意識した授業づくりを行っていく必要がある。